

へかざりてつぶを載せ、其テツブの兩耳の所に
 ミシン縫を施して胸飾となす。次にレースを付け
 たる袖を脇明の所へ合せ斜切の見返しを縫付けて
 袖付をなす。次にへ、トの間を一尺一寸になるよう
 細かく縫しめてギャダとなし、其所へ一寸巾位の
 斜切を縫ひ付け四分程の巾になるより裏にまつり
 つけ、その中にテツブを通して結ぶなり。



治まる御世

風のしらぶる松の音

波のうつなる岩つゞみ

鶴もおりたち龜も居て

治まる御世をまひ遊ぶ

日本國

つがの木のいやつきぐくに

すめるぎの御すぢさかえて

とほつかみ我が大君

高光る日嗣の御子の

つきぐくに幾代かはらぬ

すみかえるそが杉の根の

いはほなす常磐のみどりに

たふとくもたぐへ牽らん

あしはらの瑞穂の國は

ちはやぶる神の御國か

たかびかる日の大御子の

しらす御國は

豊州

芙蓉